

居士集卷第一 歐陽文忠公集一

古詩三十八首

顔跖

顔回飲瓢水陋巷卧曲肱盜跖戢人肝九州恣橫行回仁而短命跖壽死免兵愚夫仰天呼禍福豈足憑跖身一腐鼠死朽化無形萬世尚遭戮筆誅甚刀刑思其生所得豺犬飽臭腥顔子聖人徒生知自誠明惟其生之樂豈減跖所榮死也至今在光輝一作輝光如日星譬如埋金玉不耗精與英

おうようぶんちゆうこうしゅう  
歐陽文忠公集 (国宝)

縦 28 cm 横 18.5 cm

慶元・嘉泰 (1195 ~ 1204 年) 頃刊 39 冊

印刷術は、紙・火薬・羅針盤とともに、世界の四大発明とされるが、いずれも中国で起こり世界に広まった。書物の印刷は、ほぼ唐時代に始まるが、唐・五代を経て宋代に入ると、木版印刷の技術は格段に進歩し、「宋版」と呼ばれる愛書家羨望の古版本を数多く生み出した。

国宝・宋版『歐陽文忠公集』は、その印刷面の美しき、内容の確かさにおいて宋版中の逸品である。本書は、北宋時代の著名な政治家で、唐宋八大家の一人としても名高い歐陽修（一〇〇七〜一〇七二）の詩文を取めた全集。欧

陽修は、歐陽が姓、修が名。書名にいう「文忠公」とは、その諡（おとぎな）（死後贈られた名）である。政治的力量はもとより、古文復興を唱えた文壇の指導者として中国はもとより日本の漢学に与えた影響も大きい。本書の宋版は、世界に十数種伝存するが、そのほとんどが不完全本である。本館所蔵



本は、一部に補写があるものの、ほぼ完全な姿を伝える唯一最良のテキストである。古来日本人にも馴染み深い「日本刀詩」や、宋代動物版画として注目される「九射格」図（巻七十一）など、博学者の面目躍如たる一文も所載する。本書は、もと金沢文庫旧蔵本で、のち伊藤仁齋創設の「古義堂」に伝来したもの。古義堂本は、その散逸（さんいつ）を惜しむ声を受け、本館創設者・二代真柱が太平洋戦争開戦の前日、一括譲り受けた。ひっそりする世にあって、文化財はこうして守り伝えられた。

（天理図書館 田淵正雄）

### 天理図書館開館のお知らせ

平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）  
ただし1月1日～6日、26日、31日は休み